

履修使い勝手が向上しストレスが軽減。

もうCourse N@viには戻れない

2005年度の着任以来、ほぼすべての科目でCourse N@viを利用していた鹿又教授。

今回そのうちの1つの科目で新LMSを試用してみた感想は、「洗練されたシステムになり、使い勝手が向上した」ということだった。

その利用法と、具体的にどんな点が便利と感じたのかを伺った。

「アクセス速度が遅い」というストレスから解放された

従来のCourse N@viでは、講義資料や演習の模範解答をアップロードするほか、出席代わりに感想を書かせるレビューシート、小テストなどの機能を利用していた。今回ほぼ同じことを新LMSで試してみて感じたのは、アクセス速度が向上したことだった。「画面の遷移がスムーズになり、ストレスが軽減されました。Course N@viではログイン後に毎回科目一覧から授業科目を選ぶ必要がありましたが、各科目のトップ画面をブックマークしておいて直接アクセスできるようになったのもいいですね」。

全体的に操作性が向上し、画面が見やすくなった点も評価している。「アンケートを採ったわけではないですが、学生も同じように感じていると思われます」。

使い始める前に設定する時点では、事前に受けた説明だけではわかりにくい点もありサポートも受けたが、次第に慣れてきたという。「バラバラやっていると毎回思い出すのが大変なので、集中してやってしまった方が効率がよくておすすめです。私は春休みに時間をつくって一気にやりました」

サポートに相談したのは、非表示フォルダの使い方だ。TAとだけ共有したい、予備としてとっておきたいなど、学生から見えないように非表示に設定したフォルダを



理工学術院

鹿又 宣弘 教授

作った。しかし、連番でフォルダ番号がつくため、一部を非表示にすると学生には番号が飛んで見えてしまう。「非表示にしたいフォルダは最後に追加するといったアドバイスを受けて、この悩みも解決しました」。

小テストの使い勝手が圧倒的によくなった

さまざまな改善点のうちでも、特に[小テスト](#)の使い勝手の良さを実感しているという。たとえば、問題の中に画像や動画を埋め込んで表示したい場合、Course N@viでは表示サイズが固定だったが、これをピクセル単位で任意の大きさに指定できるようになった。「Course N@viでも画像をクリックすれば拡大表示できましたが、ワンクリックする手間が煩雑でした。今回はその点インラインでそのまま画像を見ながら問題を解けるので、紙のテスト問題そのままのイメージで解答できるのがとてもいいですね」。

また、Course N@viではベタ打ちで順番にスクロールしていく形式だったのが、ひとつの図を表示して関連問題が数題続いた後、ページを変えて次の問題を表示するという形にできるようになった。「学生にとっては、

ロールプレイをしながら問題を解いているような感覚で、やりやすいのではないのでしょうか」。

これら新たに追加された入力方法についても、直感的に分かりやすかったと感じている。「ちょっと触ってみればすぐ飲み込めたので、試行錯誤しているうちにマスターできるでしょう。問題を一度アップロードしておけば、それを組み合わせて使い回せるのもいいですね」。

さらに、解答回数を任意の数で指定できる点も大きなポイントだという。Course N@viでは①1回のみ、②合格点に達するまで何回でも、③無制限という3つのオプションから選ぶようになっていた。「1回のみではシステムトラブルに関連したクレームがありがちですし、③だと誰でも満点が取れてしまう。そこで②を採用していました。ところが、1回1問ずつ解答して正解を探り、10回目で満点を取るという手法を取る学生が多数出てきて困っていました」。

そこで、今回は3回に設定。「1回目が悪かったら2回目をがんばってもらう。保険としてもう1回設けるとして、3回ぐらいが一番教育効果が大きいかなと思います」。

さらに「圧倒的に使いやすい」と感じているのが、小テストや課題などの点数に小数点を扱えることだ。この授業では、課題（旧レビューシート）や演習、小テストなどの点数をポイント化し、そのポイント数に応じて、単位取得のために必要な理解度確認試験の点数を決めて公表している。小数を扱えることにより、そのポイント計算において各要素の点数に比重をつけた細かい設定が簡単になった。

外部コンテンツの共有で可能性が広がる

これら個々の機能アップに加えて大きな魅力と感じているのは、外部コンテンツとの共有の可能性だ。以前、所属しているアメリカの学会で論文のデータベースを利用できるというサービスに申し込んだところ、Course N@viでは外部からのアクセスができないため実現しなかった。「その点これは今世界中で標準とさ

れているMoodleというLMSをベースとして開発されていますから、これに限らず、今後も生まれるだろう世界中のさまざまなサービスともスムーズに連携できる可能性が大きいでしょう。特に理系の領域では国際水準で書かれた英語版のテキストがよく使われるので、外部のグローバルなコンテンツを手軽に利用できる環境を整えることは、教育を受けるに値する大学として評価が高まり大きなアドバンテージとなるでしょう」。

すべての授業を設定するのは多少の手間はかかるが、それだけの価値はあると断言する。「一度慣れたら絶対に使いやすさを実感します。今はもうCourse N@viには戻れないですね」。

今回の試用では、これまでやっていたことをそのまま試してみるのが精一杯だったが、今後はよりさまざまな利用法にも挑戦してみたいと考えている。「正式リリース後に利用者が広がれば、私が気づいていない活用事例も増えてくると思うので、大いに参考にしたいですね」。

